

グ工程
リング後
アのの
テ品の
ス部

日本からタイに13年移管

協和工業 コスト競争力強化

【名古屋】協和工業（愛知県大府市、鬼頭佑治社長、0562・47・1241）は2013年をめどに、米国向けステアリング部品生産の後工程を現在の日本から、タイに移管する。主要供給先であるホンダなどのモデルチェンジに合わせ、順次、ほぼ全量をタ

イ生産に切り替える計画。12年初にはタイの月産能力を現状の倍の10万個に引き上げる。コスト競争力の強化が狙い。

協和工業がタイに移管するのは、電動パワーステアリング向けに需要が拡大しているユニバーサルジョイント。コア技術である冷間鍛造工程は本

社工場に残し、タイ工場（プラチンブリ県）で後工程の機械加工や組み立てをして米国に輸出する。

これに伴い、本社工場から加工設備を移設し、生産能力を高める。人員も現在の20人から5、6人増やす計画。主力の自動車用だけでなく、農業

機械用など非自動車の米国向け供給も同様に、日本からタイに生産を順次切り替えていく方針。

同社はGMBとの共同出資でタイ工場を建設し、10年3月に稼働した。現在は現地の日系自動車メーカーの工場向けにユニバーサルジョイントを生産しており、供給量は拡大傾向にある。

日本からの後工程移管によって現在の賃借工場が手狭となるため、将来の増産に備え、タイで新工場の建設も検討する。